特に注意したい「物」の事故

重大事故は一度起きれば今後の生活に大きな影響を与え、農業の継続が困難になることもあります。とりわけ機械や用具などの「物」による事故は、重大事故につながりやすく、注意や対策が必要です。

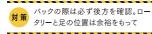


対策 整備は、必ず回転を止めて行う









対策 はしごや脚立は安定させて設置。高 所作業では必ずヘルメットの着用を

対策 昇降路や公道ではブレーキの連結ロックを。降車時は後ろ向きに

点検整備を定期的に行い、

点検整備を定期的に行い。 自分でできないときは 整備業者に依頼する



休憩時間を必ず設定し実行する。 「あと少しだから続けよう」はやめる

農作業安全の取り組み



取扱説明書やカタログに 記載されていない使い方はしない



1人作業時は「どこで、何の作業を するか」を家族に知らせるとともに ホワイトボードなどに書き込んでおく



1シーズンに一度は 取扱い説明書を読む



自分の技術力や 体力を過信しない

農作業事故に備えませんか?

「JAの農作業中傷害共済」は、少ない掛金で怪我や万一の時に備えることができます。 お問い合わせは各支店窓口又はLAまで

イラスト:ゆきたけし

農作業事故のない地域農業を目指そう

現在、農作業中の事故件数を減少させることが農業全体の課題となっています。 今回の特集では農作業中の事故発生の要因と注意事項をご紹介します。 しっかり確認し、農作業事故のない地域を目指しましょう。



なぜ農作業事故が起きるのか

なぜ農作業事故がこれほど多いのでしょうか。事故には、場所や天候といった「環境」、農機具や生物などの「物」、作業者である「人」という三つの因子があります。

それぞれの因子について、農業ならではの特性があり、三つの要因が積み重なることにより、「事故の起こりやすさ」や「重大事故へのつながりやすさ」が大きくなってしまうのです(図表2)。

図表2 農作業の特性と事故の関係

農作業の主な特性		データの検証結果	まとめ
①環境	斜面、高所 作業が多い	「転倒(同一平面)」「墜落」が 事故全体の過半数を占める	事故が起こりやすい
	狭く暗い施設、 炎天下が多い	施設事故は約2割を占める発生時期は7~9月で 約3割を占める	
② 物	さまざまな機械、用具、家畜を扱う	機械、用具、生物だけで 約5割を占める	
		機械、用具、家畜の事故の 重症度は他の事故よりも高い	重大事故につながりやすい
3 人	高齢者が多い	高齢なほど重症度が高い	
	ひとりでの 作業が多い	事故後すぐに発見されない ケースが散見される	

年間約7万件の事故が発生

JA共済連では大量の共済金支払いデータを分析 することで、後遺障害事故は死亡事故の約2倍、傷 害事故は死亡事故の約224倍起きていることを確 認しました。この倍率を農林水産省の死亡事故調査 (2016年)の312件に掛けることで、農作業事故 が年間約7万件発生しているものと推計しています (図表1)。

図表1 農作業事故の全体像









